

喜びの宗教

マルコによる福音書二章18〜28節

イエスは彼らに言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿と一緒にいる間は、断食はできない。」(19)

当時のユダヤ人社会で重んじられていた断食を主イエスの弟子たちが重んじていないと言って人々が非難しました。断食とは本来悲しみの表現でした。主イエスが世に来ておられるということは、花婿が来ていることだと言われます。それは最高に喜ばしい時です。花婿を迎える婚礼の客にとり、断食などできるはずはないのです。喜びに溢れ、歌わずにはいられないのです。それゆえ主イエスは逆に問われました。ここに私がいるのに、なぜまだ神がおられないかのごとく断食するのかと。主イエスは今、聖霊によって私たちと共におられます。教会は、目には見えませんが生きておられる主をお迎えしている共同体です。ですから、私たちも喜びに溢れて共に集まるのです。私たちも主イエスを中心にお迎えして、喜びと命にあふれた信仰生活を送りたいと願います。